江戸川大学学生新聞
THE EDOGAWA TIMES

VOL.6 #12
2016年11月9日（水）

取材／編集：学生記者クラブ
発行：江戸川大学企画総務課

“やさしい”は好きですか？

一般社団法人流山青年会議所主催

『和の心サミット2016』江戸川大学生がパネリストに

2016年10月20日、「和」とは何かを考えることで日本文化を捉えなおす「和の心サミット2016」が、流山商工会館（流山市上貝塚）で開かれた。本学からは社会学部人間心理学科4年の篠原樹里さんと経営社会学科4年の中国人 留学生、ソウ エイカンさんがパネリストとして参加した。

（取材：小川 茜　撮影：石井 蓮）

サミットは、コーディネーターを務める志賀進一さん（流山市観光協会会長）の挨拶に続いて、6つの議題が討論された。

そのなかで一番の盛り上がりをみせたのが、3番目に取り上げられた「日本語って難しいけど美しい！大好きな言葉って何ですか？」だった。

きっかけは、オランダ人のヨス・ニフュユスさん（流山市国際交流協会）の「私は〝やさしい〟という言葉が好きです。言葉の響きが素晴らしい」と語ったこと。

それに対しソウさんは「中国と日本では〝やさしい〟のとらえ方が異なります。中国では特に、男性に対しての〝やさしい〟は〝女々しい〟に近いイメージがあります」という。

これには会場から「おぉ～！」という声が上がり、田口佳子さん（陶芸家 紫焔釜代表）は「私の主人はやさしいですね。…ジョークですよ！」と笑いを誘い、篠原さんは「私は好きですね。日本語の〝やさしい〟は雰囲気が柔らかいイメージがあるので、やさしい人だね、といわれると素直に嬉しいです」とはにかみながら応えた。

その後も〝やさしい〟ということばが文化的背景によって異なる価値観をもつことが議論された。

ふだん何気なく使っている言葉。その言葉は、自分たちとは異なる他者の価値観を知り自らを相対化できる一つの手段である。さらに自他を理解しあい尊重することにも繋がるのだ。まさに〝やさしい〟はその一つの手段であった。

この他「え？何コレ？日本で感じた何だコレ？海外で感じた何だコレ？」「ついついやってる日本の習慣。こんな習慣あったらいいな」「和食はお好き？」「ワタシの国の文化ってスゴイ！」「あなたにとって『和の心』とは？『日本の心』とは？」などのテーマについて、1時間30分にわたり、活発な討論が行われた。

左から、田口佳子さん、ヨス・ニフュユスさん、ソウ エイカンさん、篠原樹里さん

なぜ、パネリストに江戸川大学生が選ばれたのですか？

流山青年会議所は公正中立の立場から地域をよりよくすることを目指している。日本青年会議所（日本ＪＣ）と連携を結んで、自分達の勉強として「自己啓発（経営開発・指導力開発）」のための事業やセミナーを開催している。サミット閉会後、理事長の鈴木道貴さんに、今回本学の学生を起用した理由をインタヴューした。

「我々、流山青年会議所は市内で活動をしています。そのため市内にいる学生というのが一つ。また、海外からの留学生もいるということで今回の内容と合致していたので、選ばせていただきました」とのことだった。